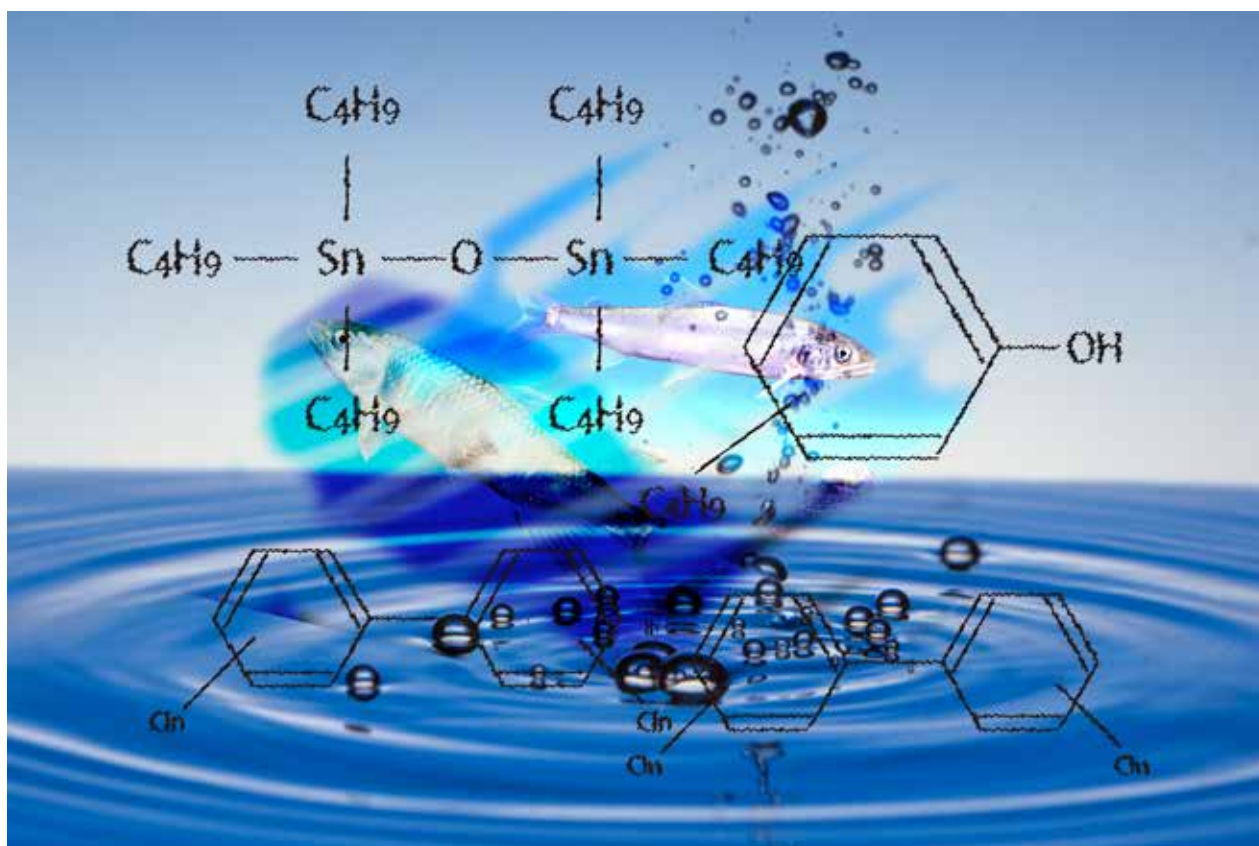


バイオアッセイで環境をはかる 毒性試験による環境リスク評価のご案内

現在、私たちは、様々な化学物質に囲まれ生活しています。これらの化学物質は私たちに豊かな恩恵を与えてくれる一方で、健康や環境に悪影響を及ぼす危険性を含んでいます。

水中に生息する魚類等の水生生物は、陸域から流入する重金属や有害化学物質の影響を特に受けやすいため、これまで魚類の一時的な大量斃死、その長期化、広範囲化による漁業被害が各地で起こりました。このような化学物質による悪影響を防ぐために、現在の関係法令では、魚類を用いた急性毒性試験等による化学物質の安全性評価が定められています。

当協会では、「OECD 化学品テストガイドライン」、「JIS K 0102 工場排水試験方法」、「化学物質審査規制法」、「海産生物毒性試験指針（水産庁、平成 12 年 3 月）」に準拠した急性毒性試験のほか、様々な毒性試験を実施しています。各種の飼育試験とあわせて、お気軽にご用命ください。どうぞ案内申し上げます。



試験方法

急性毒性試験：半数致死濃度 (LC₅₀) または半数影響濃度 (EC₅₀) の算出

- 魚類 (ヒメダカ, ゼブラフィッシュ) : 化学品テストガイドライン
工場排水試験方法 JIS K 0102 (1998)
- ミジンコ類 (オオミジンコ) : 遊泳阻害試験方法 JIS K 0229 (1992)
化学品テストガイドライン
- 植物プランクトン : 化学品テストガイドライン (藻類生長阻害試験)



ヒメダカ



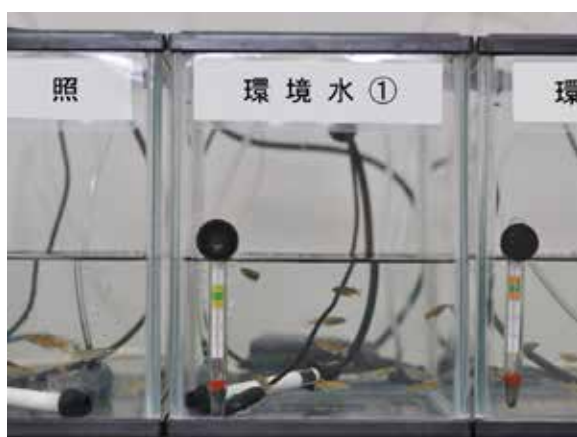
ニセネコゼミジンコ



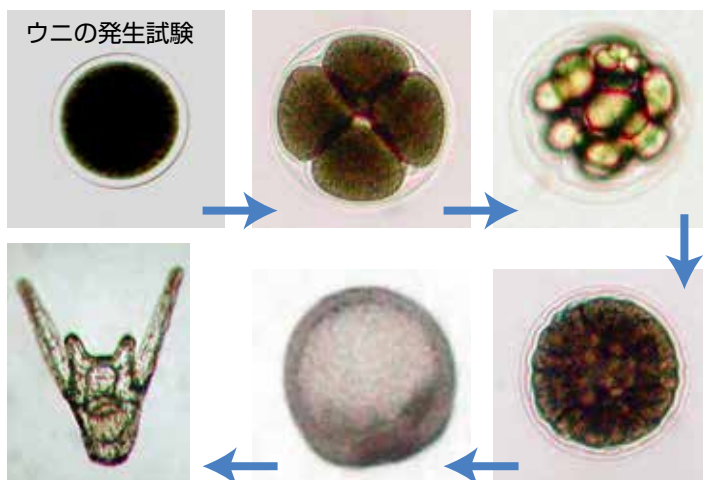
Pseudokirchneriella subcapitata

その他の毒性試験：長期飼育試験, 発生阻害試験

- 海産動物プランクトン (シオダマリミジンコなど) : 海産生物毒性試験指針
- 魚介類 (マダイ, ヒラメ, クルマエビ, アサリなど) : 長期飼育試験
- ウニ類 (ムラサキウニ, アカウニなど) : 成長阻害試験



魚類による試験状況



この他にも、ご相談により試験を設計いたします。



一般財団法人

九州環境管理協会

〒813-0004 福岡市東区松香台1-10-1

TEL 092-662-0410

FAX 092-662-0411(代表) 092-662-0424(水生生物調査課)

e-mail:syougai@keea.or.jp http://www.keea.or.jp

毒性試験担当 : 環境部 水生生物調査課

料金・見積担当 : 総務部 渉外課